

自然体験とユニバーサルデザインに関する意識調査

I アンケートの概要

- (1) 実施期間 平成 31 年 2 月 1 日（金曜日）から 2 月 15 日（金曜日）まで
- (2) 対象者数 1,142 人
- (3) 回答者数 754 人
- (4) 回答率 66.0%

ア 年齢階層別

	10 歳代 20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳代以上
回答者数	46 人	149 人	214 人	166 人	140 人	39 人
構成比	6.1%	19.8%	28.4%	22.0%	18.6%	5.2%

イ 地域別

	北勢	中南勢	伊勢志摩	伊賀	東紀州
回答者数	381 人	204 人	84 人	69 人	16 人
構成比	50.5%	27.1%	11.1%	9.2%	2.1%

※北勢地域 四日市市、桑名市、鈴鹿市、亀山市、いなべ市
木曾岬町、東員町、菰野町、朝日町、川越町

※中南勢地域 津市、松阪市、多気町、明和町、大台町

※伊勢志摩地域 伊勢市、鳥羽市、志摩市、玉城町、度会町、大紀町、南伊勢町

※伊賀地域 名張市、伊賀市

※東紀州地域 尾鷲市、熊野市、紀北町、御浜町、紀宝町

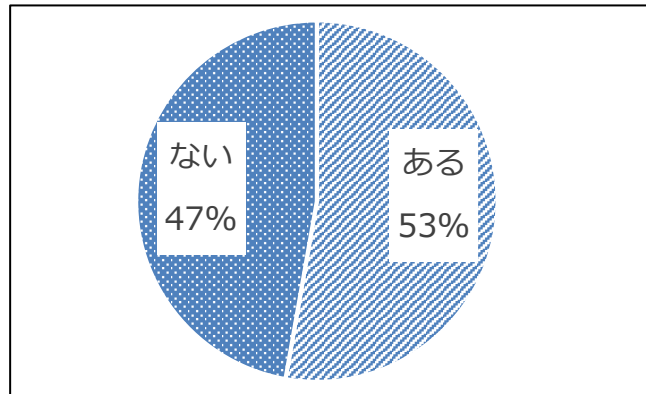
Ⅱ アンケート結果

○「自然体験に関するアンケート結果について」（農林水産部農山漁村づくり課）

1 自然体験の経験について

Q 1 あなたは、三重県内で自然体験の経験がありますか。

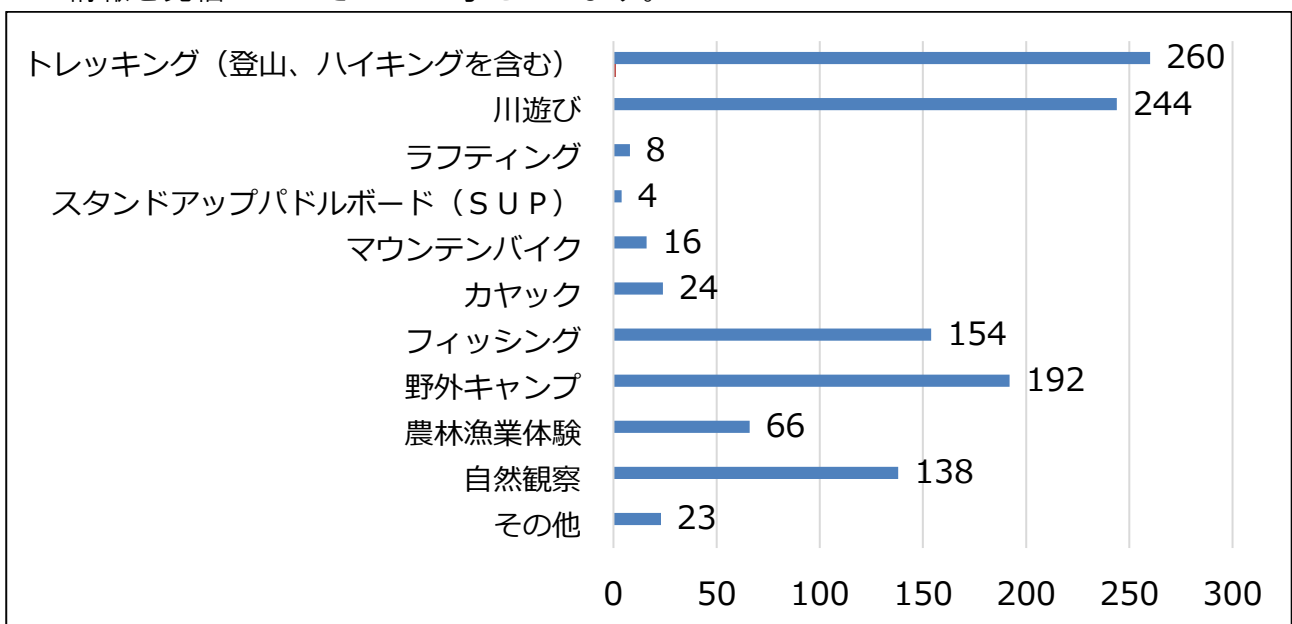
三重県内で自然体験の経験のある方が半数を超えました。（昨年度調査では43%）
今後も自然体験を行う方が増えるよう、県内の自然体験の魅力を発信していきたいと考えています。



2 自然体験の内容について

Q 2 どのような自然体験でしたか。

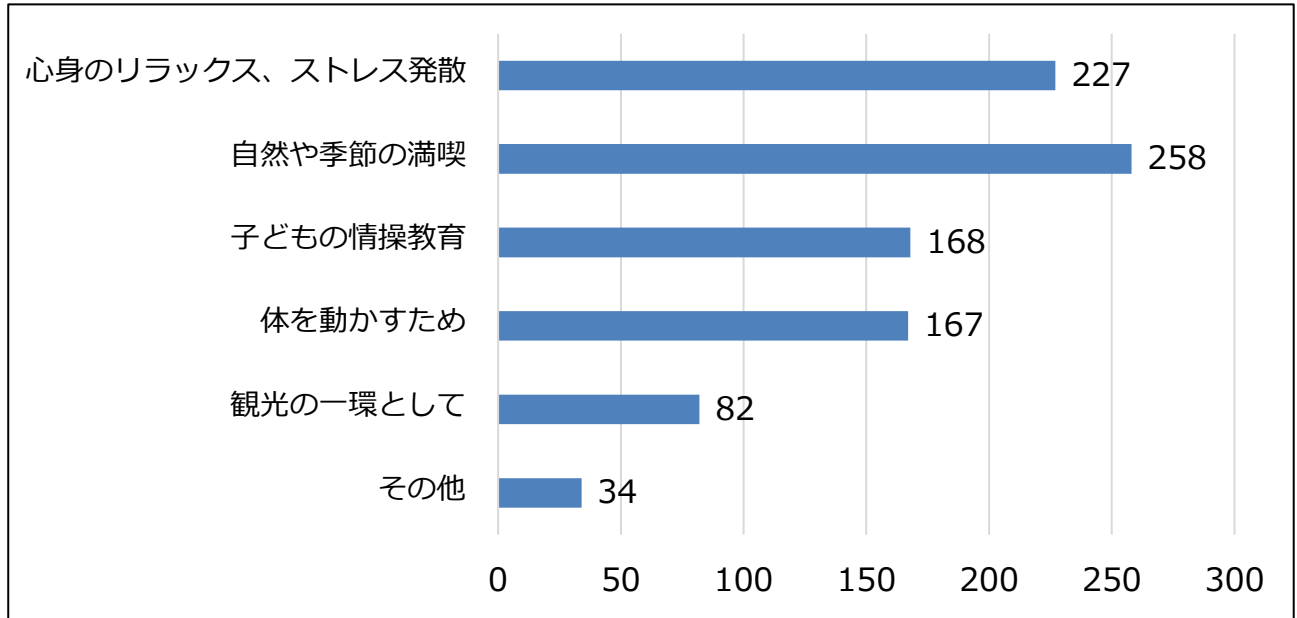
三重県内で自然体験の経験がある方にその内容をたずねたところ、以下のグラフのとおり、「トレッキング」や「川遊び」が上位となりました。回答が少なかった自然体験も魅力的なものであることから、その楽しさや、県内の身近な場所で体験できることなどの情報を発信していきたいと考えています。



3 自然体験の目的について

Q 3 自然体験を行った目的は何ですか。

三重県内で自然体験の経験がある方にその目的をたずねたところ、以下のグラフのとおり、「心身のリラックス、ストレス発散」や「自然や季節の満喫」が上位となりました。こうした情報を今後の情報発信やイベント等の参考にしていきたいと考えています

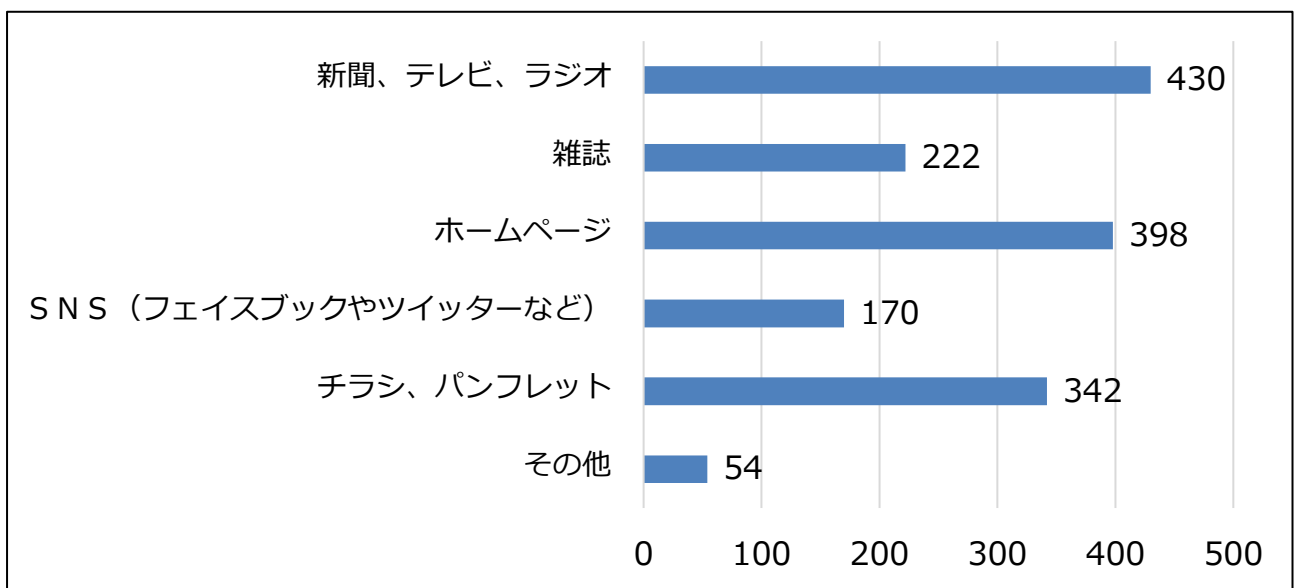


4 自然体験の情報入手について

Q 4 あなたは、自然体験についての情報を得る場合、どの手段を用いますか。

自然体験の情報入手する手段についてたずねたところ、以下のグラフのとおり、「新聞、テレビ、ラジオ」や「ホームページ」が上位となりました。

このほかのメディアを利用している方も多いことから、さまざまな手段を用いて情報発信を進めていきたいと考えています。

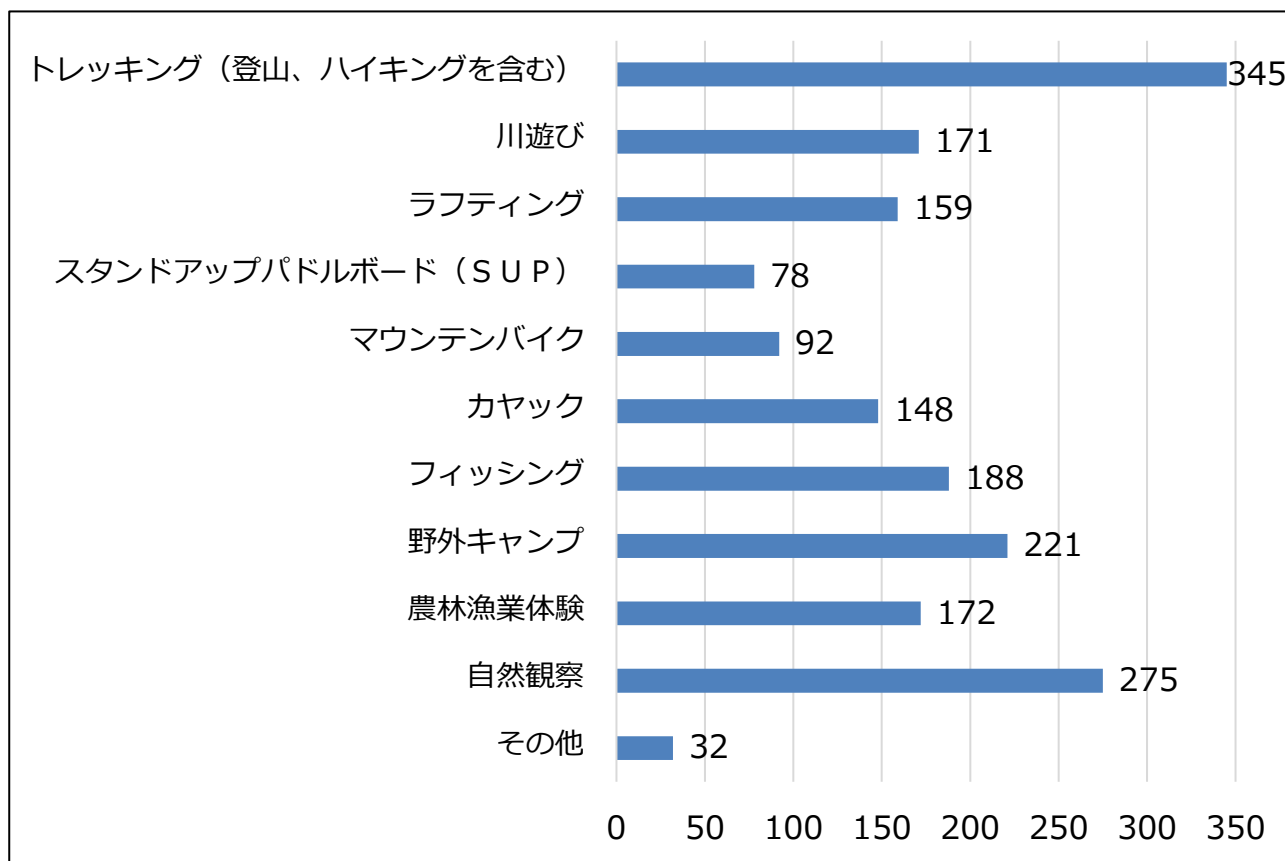


5 自然体験の希望について

Q5 あなたが、今後やってみたいと思う自然体験は何ですか。

今後希望する自然体験についてたずねたところ、以下のグラフのとおり、「トレッキング」「自然観察」や「野外キャンプ」が上位となりました。

今後も、イベントの開催等を通じてさまざまな自然体験に触れていただく機会を作り、多くの方に自然体験を行っていただきたいと考えています。



○「ユニバーサルデザインに関するアンケート結果について」(子ども・福祉部地域福祉課)

※文章中のパーセント(%)表示は、小数点第2位を四捨五入して求めています。

6 「ユニバーサルデザイン」の意味の認知度及び関心について

Q6 「ユニバーサルデザイン」の意味を知っていましたか。また、関心はありますか。

ユニバーサルデザインの意味について全体で70.4%の方が知っているという回答しています。平成26年度からの調査結果の推移では、最も高かった平成28年度の結果である71.7%から、平成29年度は、0.5ポイント下がり、平成30年度もさらに0.8ポイント下がりました。

年代別では、10歳代20歳代(91.3%)、40歳代(75.2%)、30歳代(72.5%)の順に高くなっています。

地域別では、伊賀地域(79.7%)、伊勢志摩地域(70.3%)、北勢地域(70.0%)の順に高くなっています。

また、ユニバーサルデザインに関心のある方は、「意味を知っており、関心もある(48.8%)」「意味は知らないが、関心はある(20.6%)」と回答されている方を合わせ、69.4%となっています。

年代別では、60歳代(75.0%)、70歳代以上(71.8%)10歳代20歳代(71.7%)、の順に高くなっています。

地域別では、東紀州地域(75.0%)、中南勢地域(73.0%)、伊賀地域(71.0%)、の順に高くなっています。

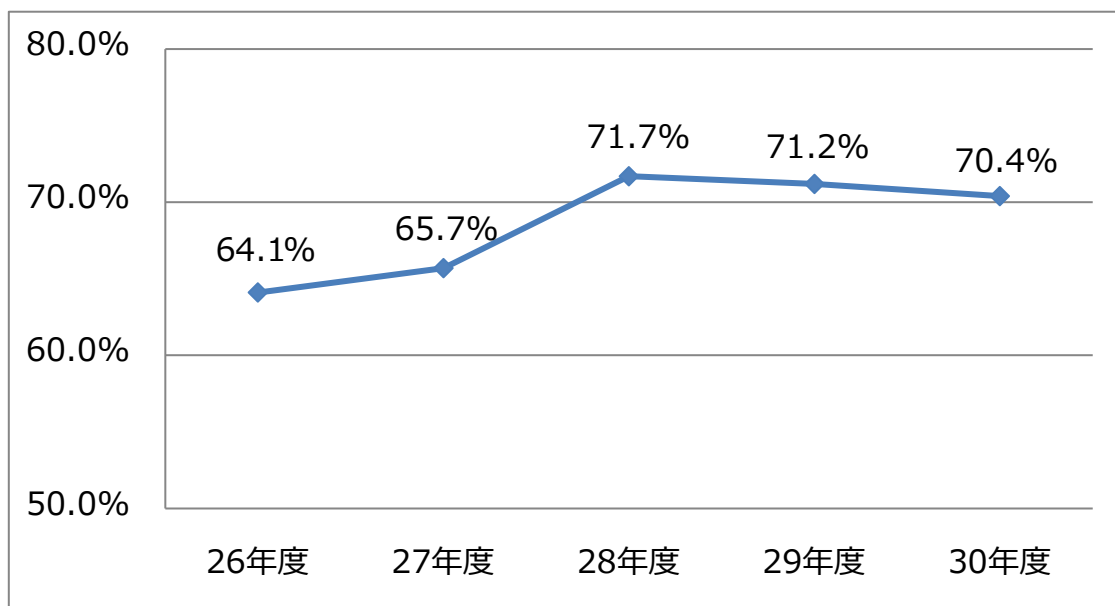


図 「ユニバーサルデザイン」の意味を知っている方の割合
(過去の調査との比較)

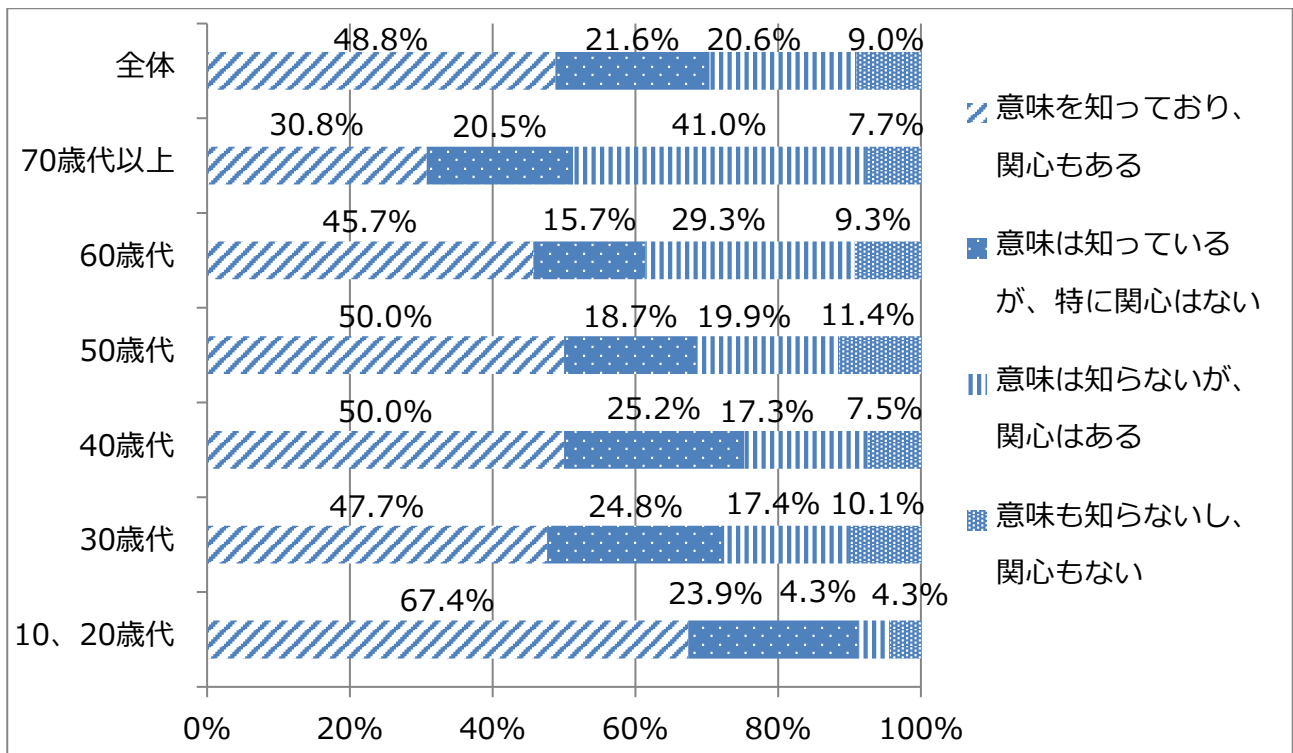


図 ユニバーサルデザインの意味の認知度及び関心（年代別）

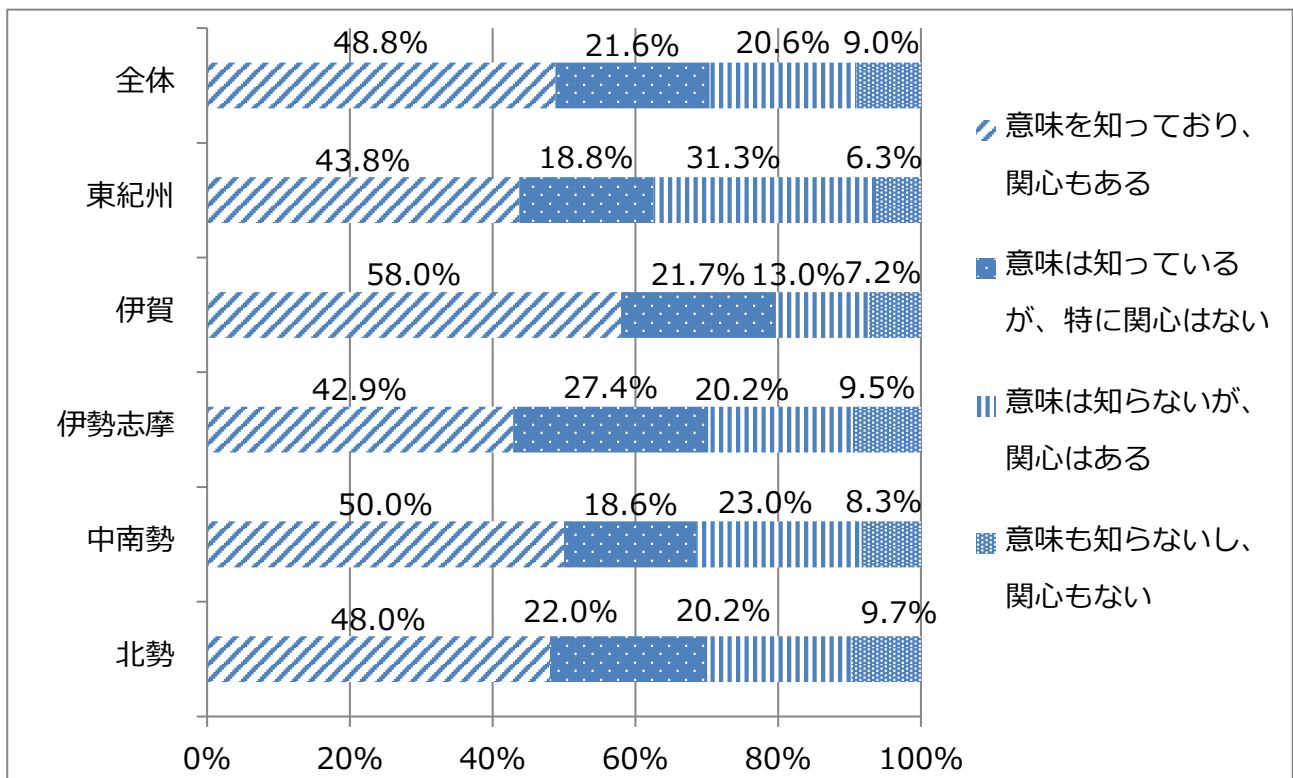


図 ユニバーサルデザインの意味の認知度及び関心（地域別）

7 施設等に関するユニバーサルデザインについて

Q7 官公庁・病院・スーパー・駅舎・歩道など多くの人利用する施設や電車、バスなどの乗り物について、だれもが使いやすくなっていると感じますか。

多くの人利用する施設やバスなどの乗り物についてだれもが使いやすくなっていると感じるかという問いに、「そう感じる（9.5%）」「どちらかと言えばそう感じる（54.9%）」と回答した方は、合わせて64.4%となっています。

平成26年度からの調査結果の推移では、平成29年度からは1.3ポイント上昇しましたが、最も高かった平成28年度の結果である66.5%からは、2.1ポイント低くなっています。

年代別では、40歳代（67.3%）、60歳代（65.7%）、50歳代（64.5%）の順で高くなっていますが、70歳代以上（53.8%）が一番低くなりました。

一方、地域別では、東紀州地域（37.5%）が、県全体の結果（64.4%）に比べてかなり低くなっています。

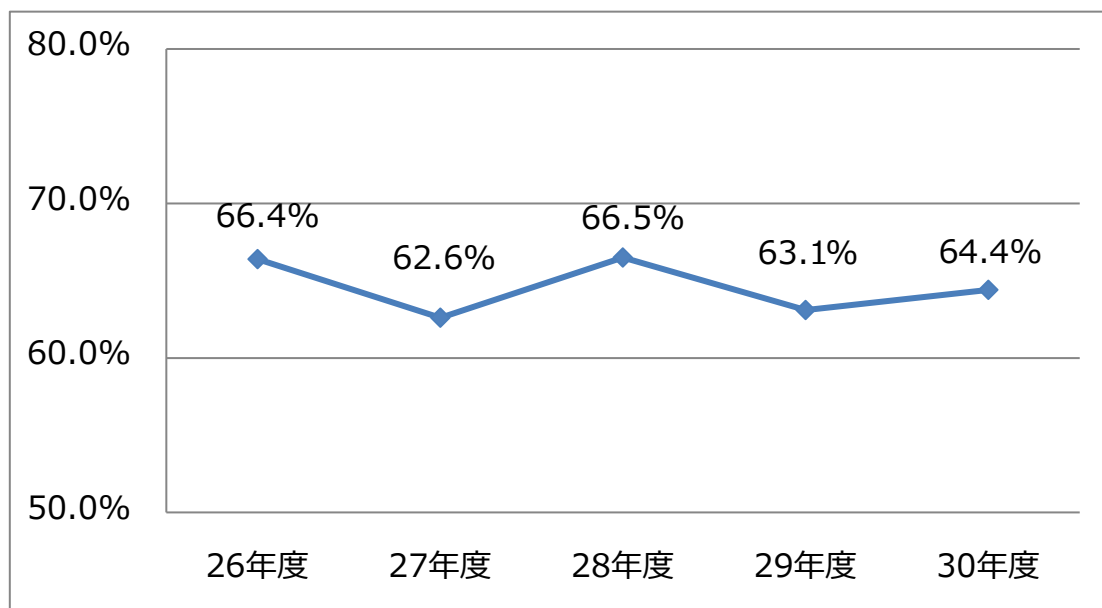


図 多くの人利用する施設等が使いやすくなってきたと感じる方の割合（過去の調査との比較）

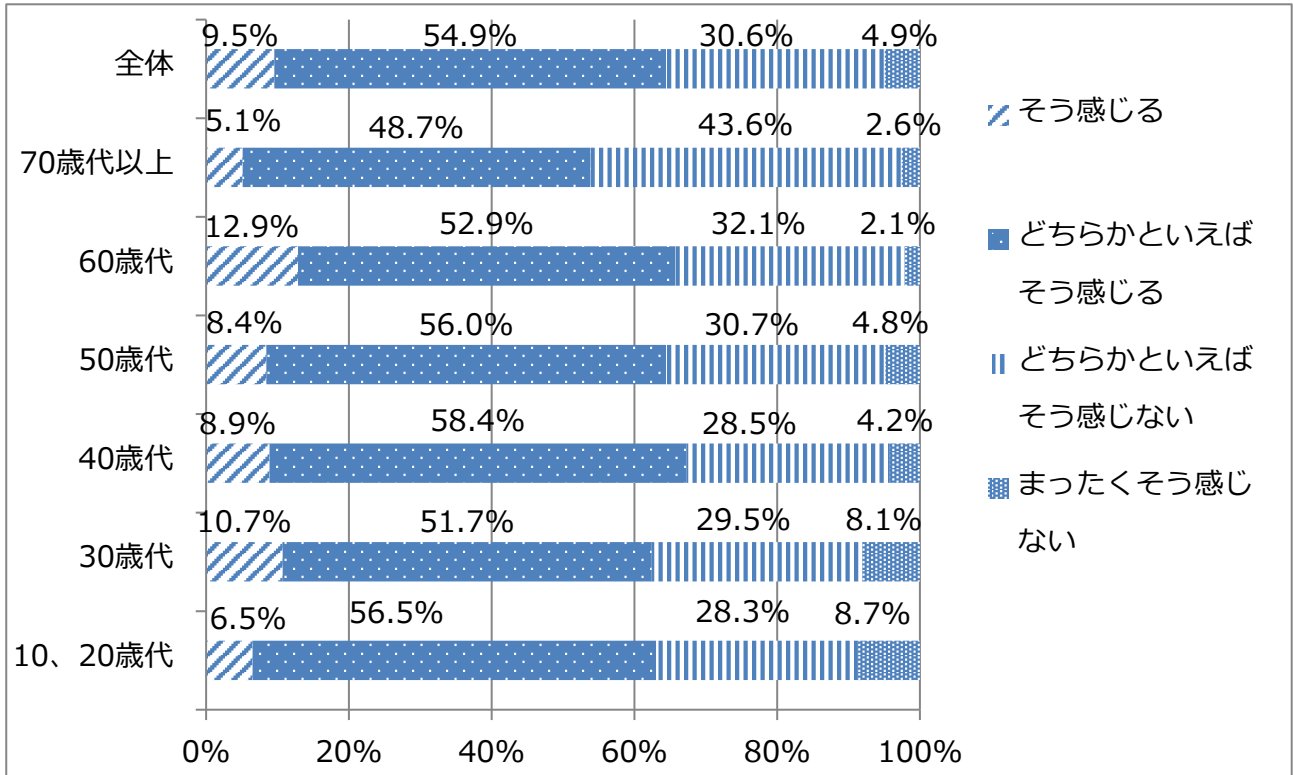


図 施設等のユニバーサルデザインについて（年代別）

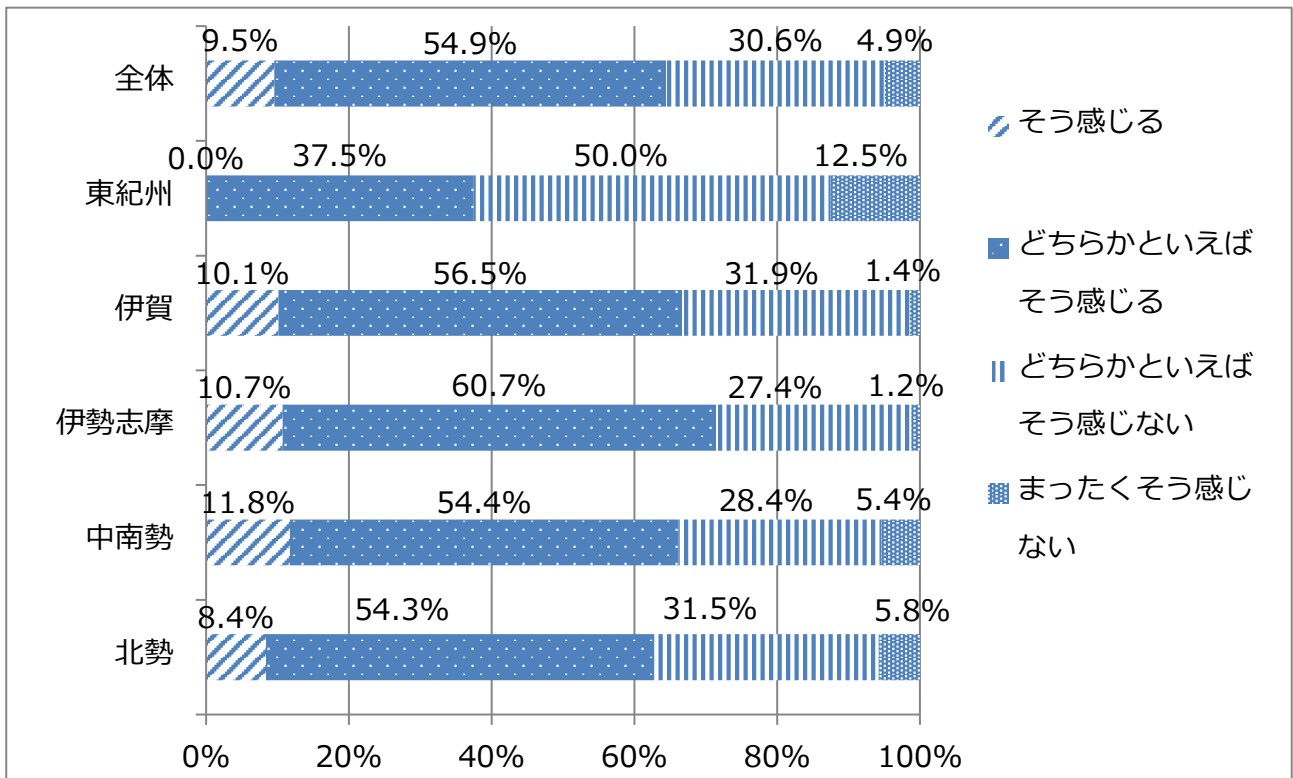


図 施設等のユニバーサルデザインについて（地域別）

8 製品及び情報提供に関するユニバーサルデザインについて

Q8 日常生活で使う製品、社会生活に必要な広報誌やチラシなどの情報提供が、障がい者、高齢者、妊産婦、外国人等さまざまな人の立場に立って配慮されてきていると感じますか。

製品、情報提供がさまざまな人の立場に立って配慮されてきているかという問いに、「そう感じる (5.3%)」「どちらかといえばそう感じる (42.6%)」と回答した方は、あわせて 47.9% となっており、建物や乗り物に関する同様の問いより 16.5 ポイント低い結果となりました。

平成 26 年度からの調査結果の推移では、最も数値の高かった平成 28 年度の 51.6% から、平成 29 年度は 1.5 ポイント、平成 30 年度は 2.2 ポイント下がる結果となりました。

年代別では、10 歳代 20 歳代 (54.3%)、40 歳代 (49.5%)、30 歳代 (48.3%) の順に高くなっています。

一方、地域別では、伊勢志摩地域 (50.0%)、中南勢地域 (49.0%)、北勢地域 (47.2%) となっています。

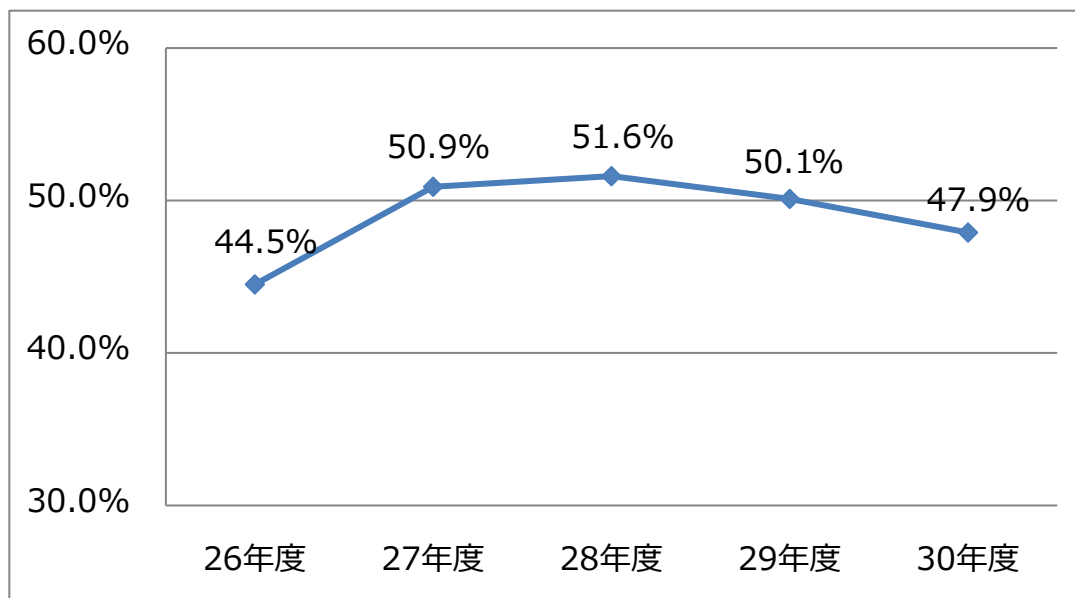


図 製品及び情報提供がさまざまな人の立場に立って配慮されていると感じる方の割合 (過去の調査との比較)

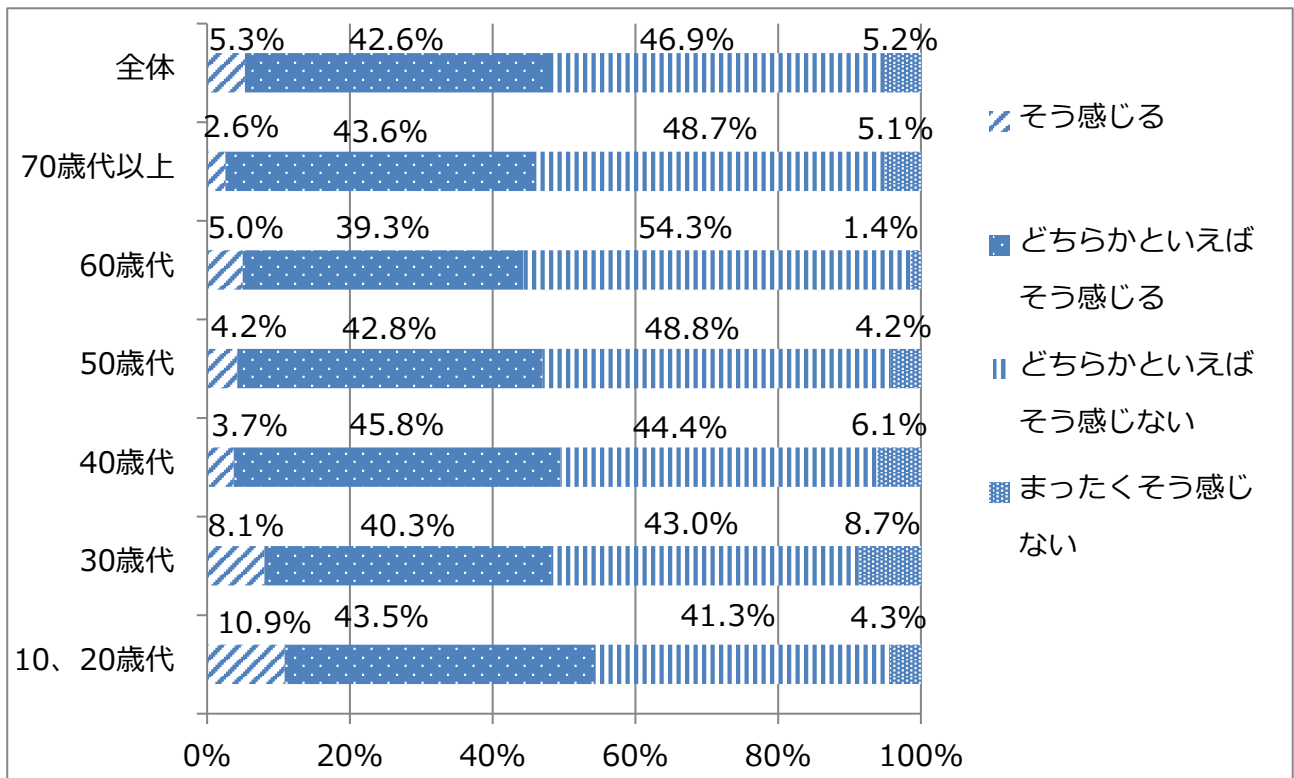


図 製品及び情報提供に関するユニバーサルデザインについて（年代別）

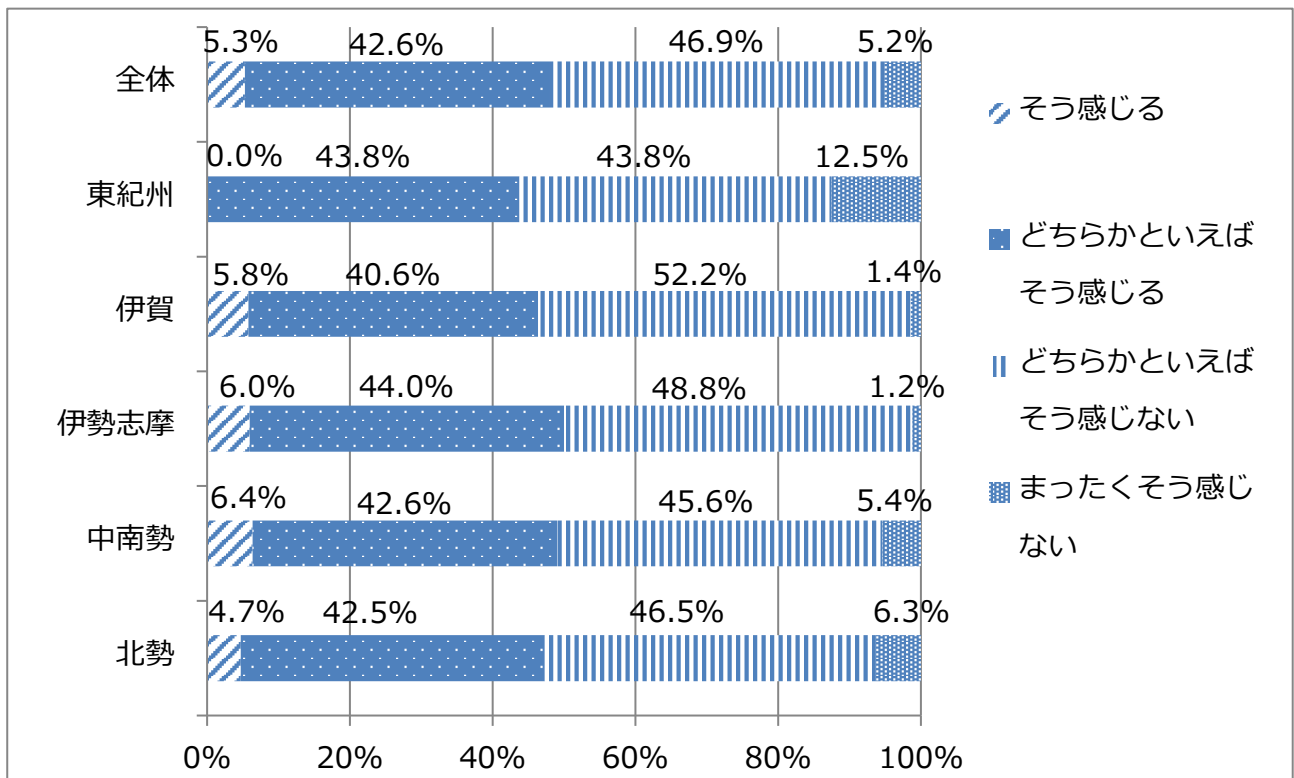


図 製品及び情報提供に関するユニバーサルデザインについて（地域別）

9 サービスの提供に関するユニバーサルデザインについて

Q9 国、県、市町等の行政サービスや商店、商業施設、宿泊施設等の民間企業等の顧客サービスが、障がい者、高齢者、妊産婦、外国人等さまざまな人の立場に立って提供されていると感じますか。

(この設問での「サービス」は、案内表示や窓口サービス(説明)のわかりやすさ、利用手続きの簡素化、その他利用者の要望に応じたサービスをイメージしてください。)

行政サービスや顧客サービスがさまざまな人の立場に立って配慮されてきているかという問いに、「そう感じる(4.8%)」「どちらかと言えばそう感じる(44.7%)」と回答した方は、あわせて49.5%となっており、建物や乗り物に関する同様の問いより14.9ポイント低く、製品や情報提供の同様の問いより若干高い数値となりました。

平成26年度から平成29年度まで、少しずつ上昇していた数値でしたが、平成30年度は3.7ポイント下がりました。

年代別では、10歳代20歳代(58.7%)、40歳代(53.3%)、60歳代(49.3%)の順に高くなっています。

一方、地域別では、伊賀地域(53.6%)、伊勢志摩地域(52.4%)、中南勢地域(50.5%)の順に高くなっており、県全体の結果(49.5%)に比べて、東紀州地域(37.5%)が低くなっています。

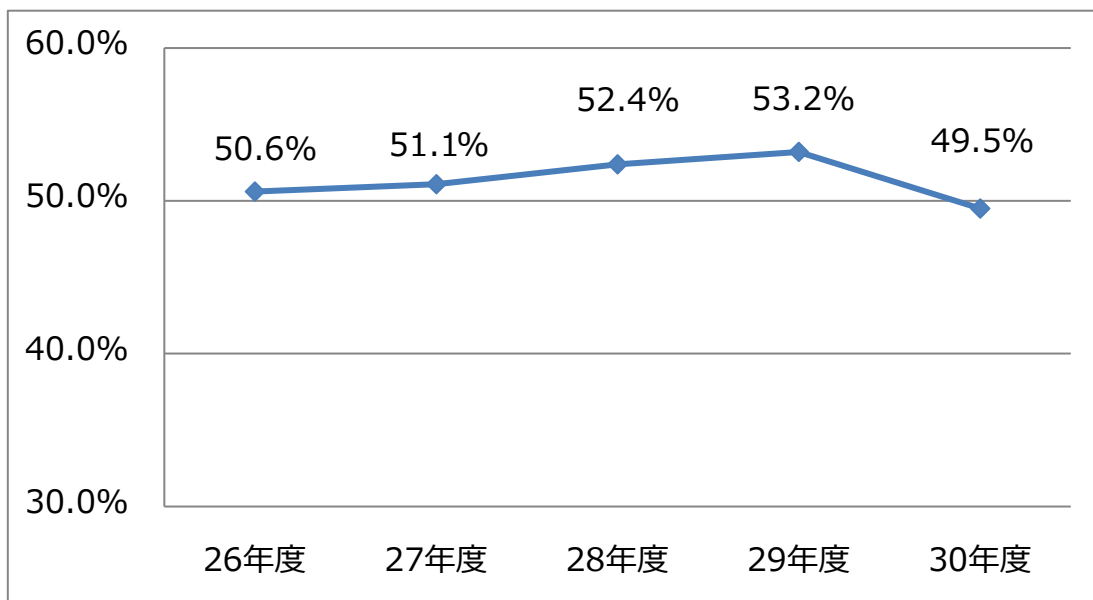


図 行政サービスや顧客サービスがさまざまな人の立場に立って提供されていると感じる方の割合(過去の調査との比較)

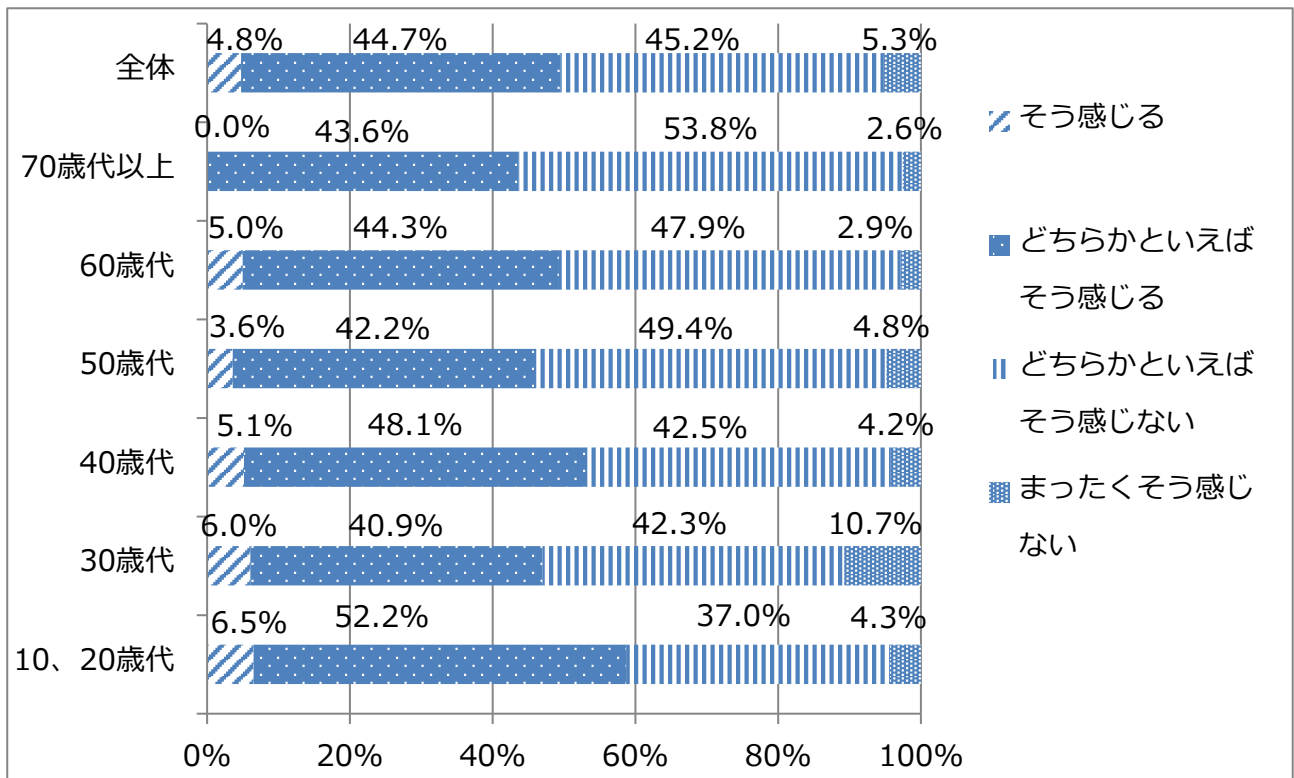


図 サービスの提供に関するユニバーサルデザインについて（年代別）

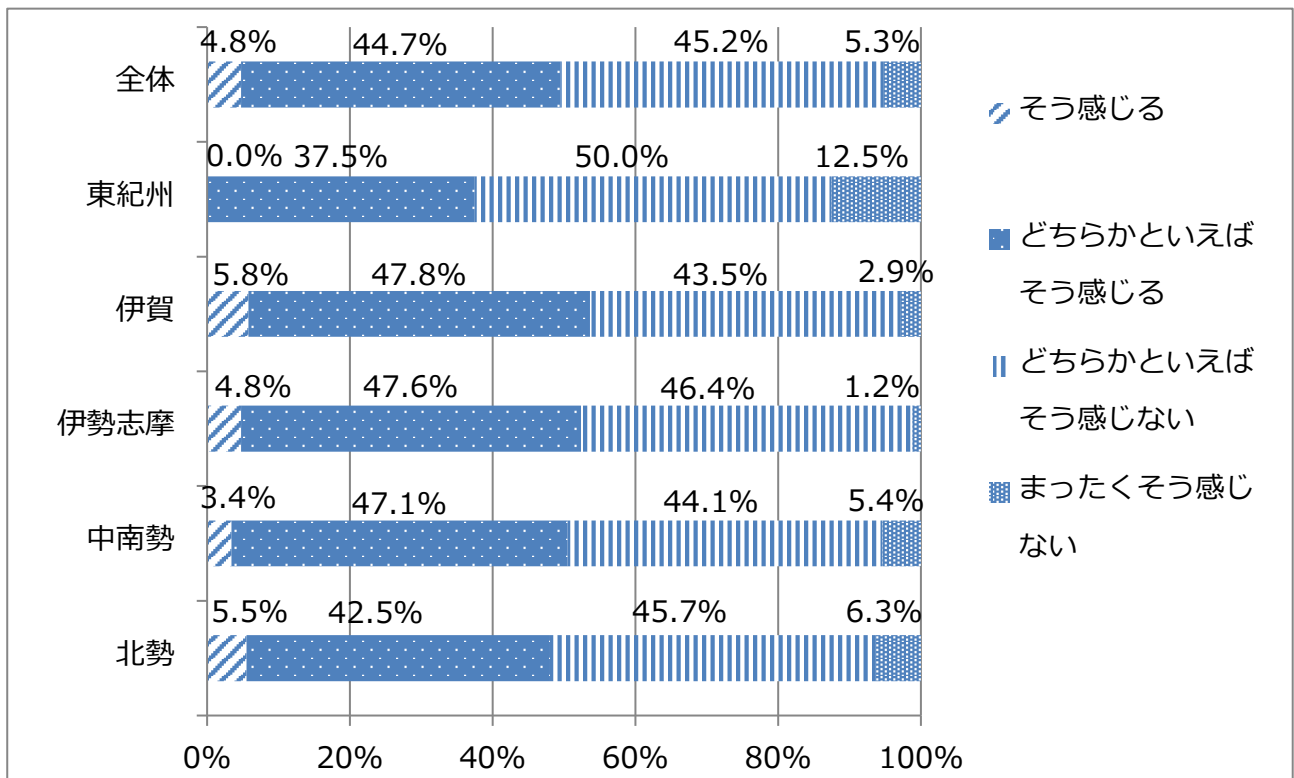


図 サービスの提供に関するユニバーサルデザインについて（地域別）

10 「三重おもいやり駐車場利用証制度」の認知度について

Q1 県では、「車いす利用者用駐車区画」（車いすのマークを表示した区画）の不適正な利用を防止し、障がい者や妊産婦、けが人などで、歩行が困難な方の外出を支援するため、公共施設や商業施設などに「おもいやり駐車場」の設置を進めるとともに、その利用証を交付する「三重おもいやり駐車場利用証制度」を実施しています。

あなたは、「三重おもいやり駐車場利用証制度」をご存じですか。

[当制度のHPアドレス]

<http://www.pref.mie.lg.jp/UD/HP/73426012526.htm>

「三重おもいやり駐車場利用証制度」について「制度の内容を知っている（50.7%）」「店舗等を見たことがあるが、内容は知らない（30.5%）」合わせて、全体で81.2%の方がおもいやり駐車場を知っているか、または見かけたことがあると回答しています。

「制度の内容を知っている」と回答した方は、年代別では、10歳代・20歳代（58.7%）、30歳代（53.0%）、40歳代（52.8%）の順に高くなっています。

地域別では、中南勢地域（54.4%）、伊賀地域（52.2%）、北勢地域（49.9%）の順に高くなっています。

東紀州地域では、「制度の内容を知っている」と答えた方が31.3%で、制度を知っている方が他の地域より少なくなっています。

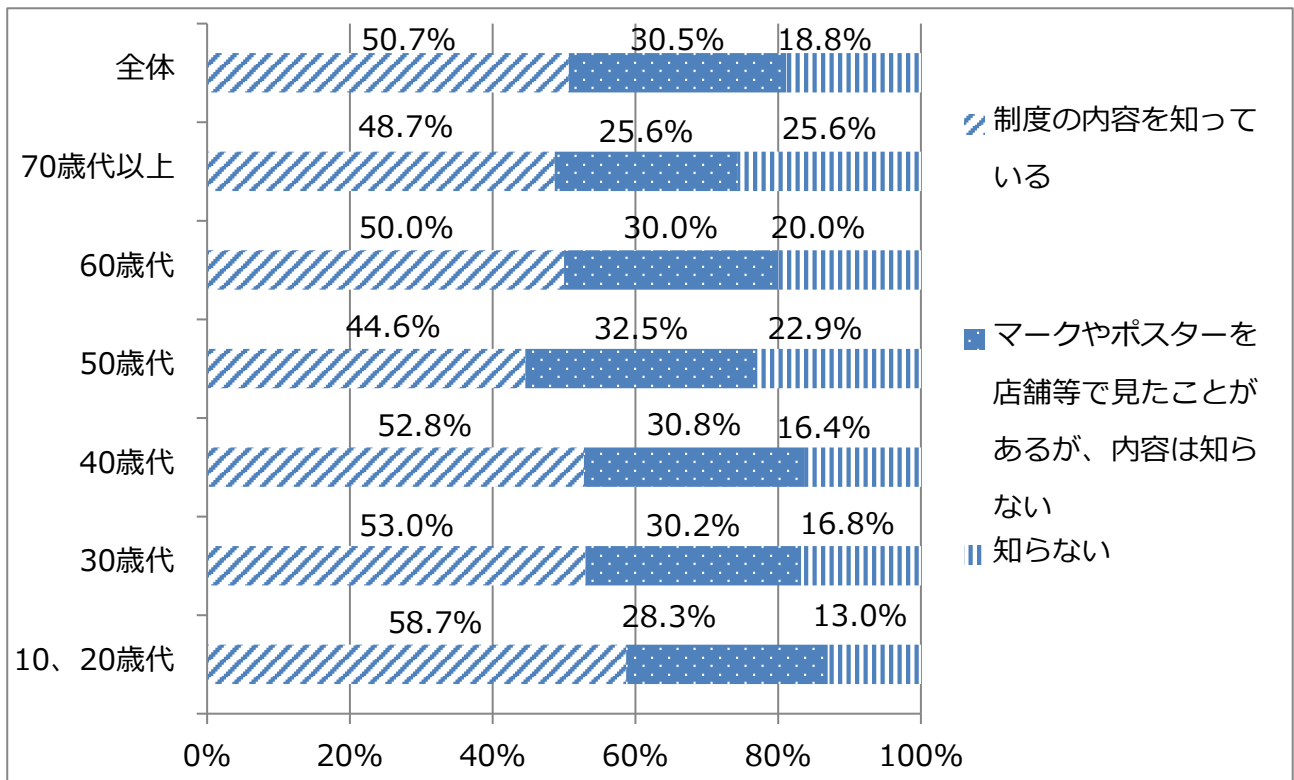


図 「三重おもいやり駐車場利用証制度」の認知度について（年代別）

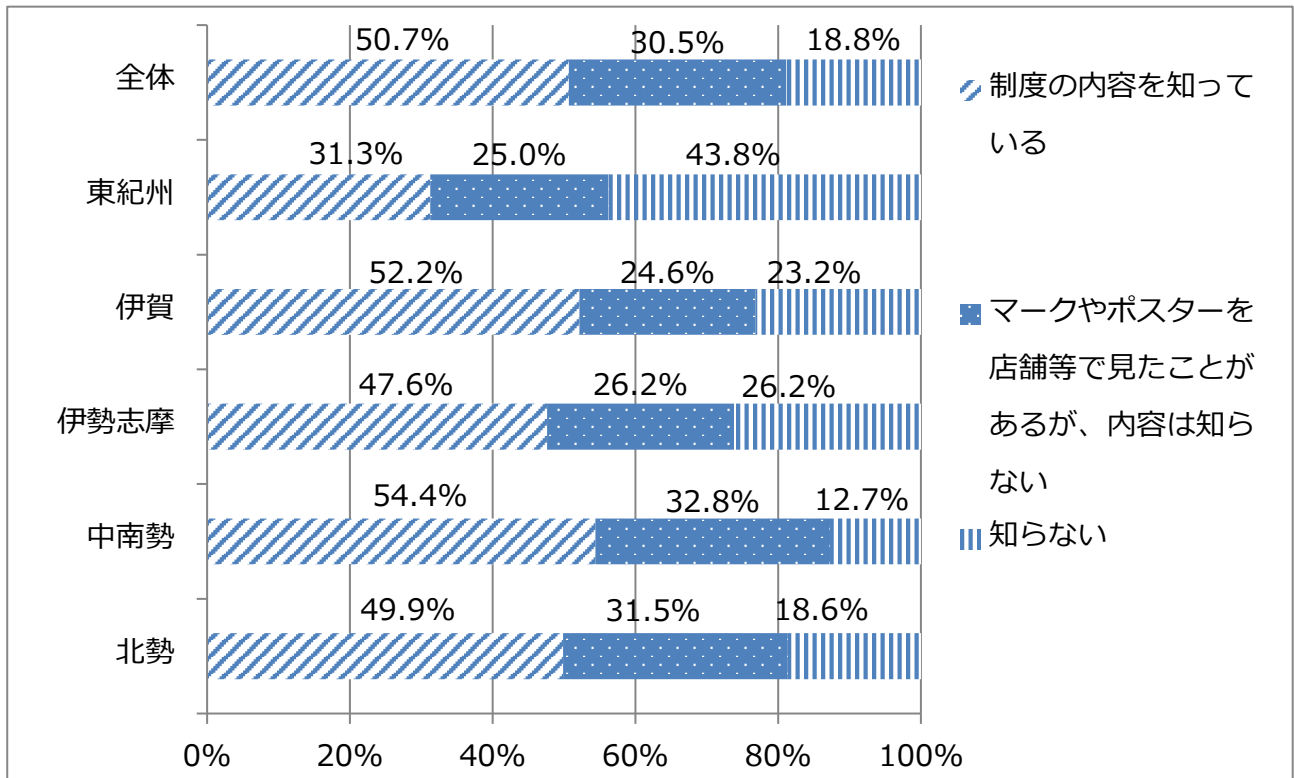


図 「三重おもいやり駐車場利用証制度」の認知度について（地域別）

11 「三重おもいやり駐車場利用証制度」の今後のあり方について

Q11 Q10で「制度の内容を知っている」と答えた方にお聞きします。

あなたはこの「三重おもいやり駐車場利用証制度」の今後のあり方をどのように思いますか。

Q10で「制度の内容を知っている」と答えた方を対象にした、「三重おもいやり駐車場利用証制度」の今後のあり方をどのように思うかの問いに、89.3%の方が「制度を継続すべきである」と回答しています。

年代別に見ると、70歳代以上(94.7%)、50歳代(93.2%)、10歳代・20歳代(92.6%)の順に高くなっており、どの年代でも多数の方が継続すべきであると回答しています。

地域別では、東紀州地域(100%)、中南勢地域(91.9%)、北勢地域(89.5%)の順に高くなっていますが、伊賀地域は、80.6%となっています。

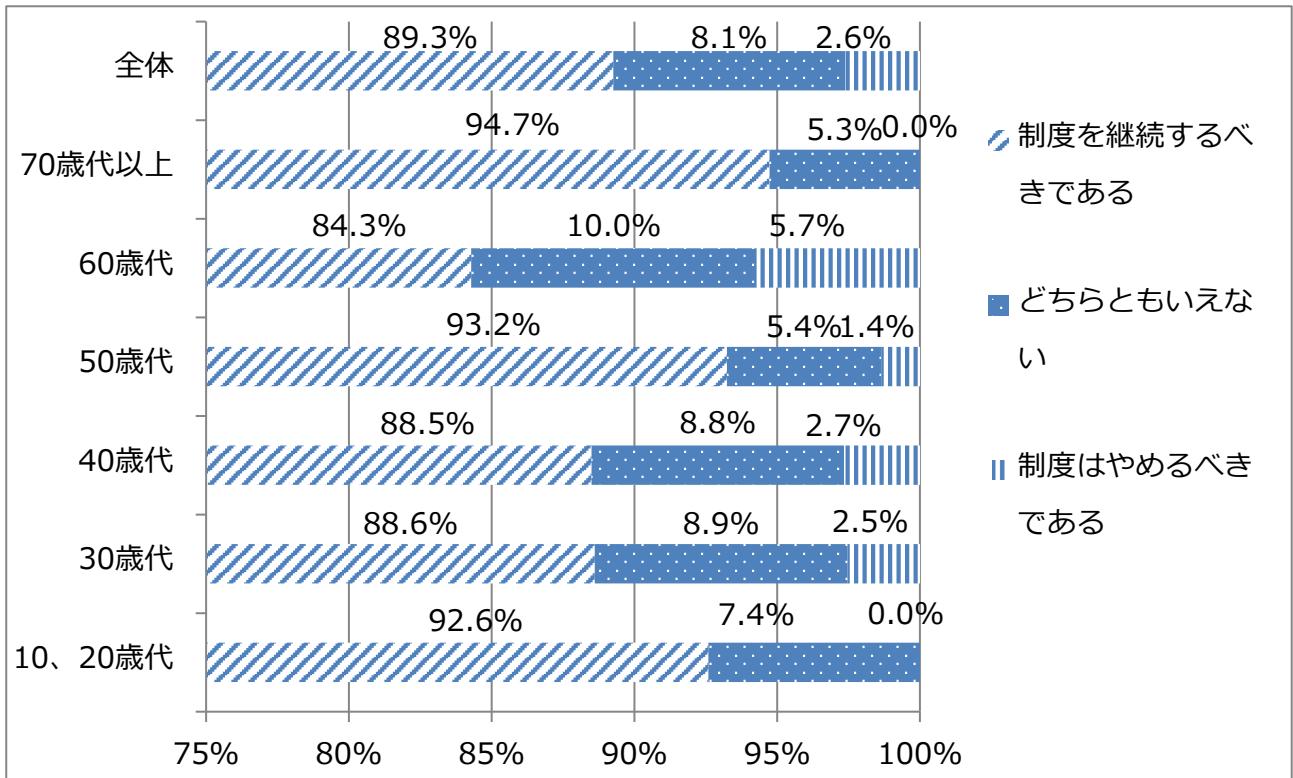


図 「三重おもいやり駐車場利用証制度」の今後のあり方について（年代別）

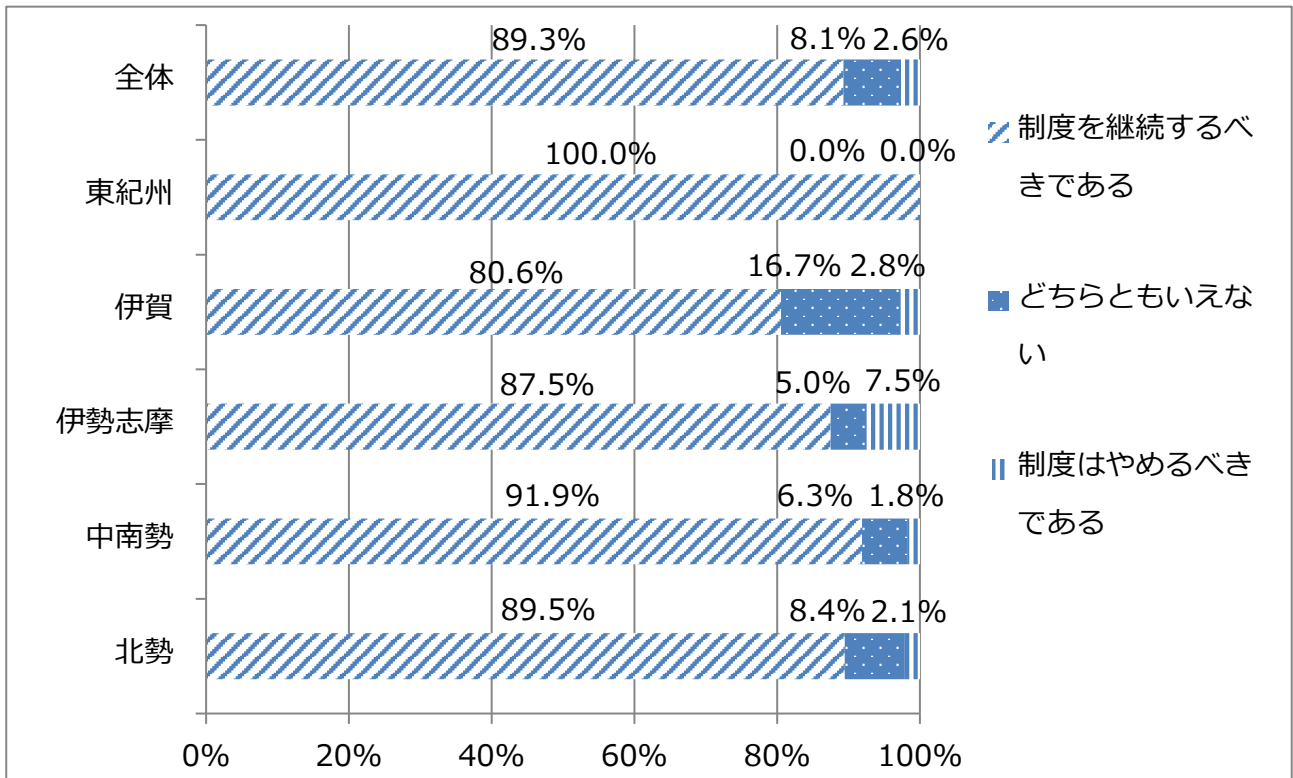


図 「三重おもいやり駐車場利用証制度」の今後のあり方について（地域別）

12 「適合証プレート」の認知度について

Q12 県では、公共的施設の整備に関し、その施設が、障がい者、高齢者等が安全かつ快適に利用するために必要な基準に適合している場合には、整備基準適合証（「適合証プレート」）を交付しています。

あなたは、「適合証プレート」を見たことがあり、その意味をご存知ですか。

[当制度のHPアドレス]

<http://www.pref.mie.lg.jp/UD/HP/20871012597.htm>

整備基準適合証（「適合証プレート」）について、「店舗等で見たとあり、示す意味を知っている（21.9%）」「店舗等で見たとあるが、示す意味は知らない（14.1%）」を合わせて36.0%の方が見たことがあると回答しています。

また、「店舗等で見たとあり、示す意味を知っている（21.9%）」「店舗等で見たとはないが、示す意味は知っている（11.4%）」を合わせて33.3%の方が示す意味は知っていると回答しています。

見たことがなく、示す意味も知らない方は、52.7%となっています。

年代別では、見たことがある方の割合は、40歳代（41.1%）、50歳代（37.3%）、30歳代（36.9%）の順に高くなっています。

意味を知っている方の割合は、70歳代以上（43.6%）、40歳代（37.4%）、50歳代（34.9%）の順に高くなっています。一方、10歳代・20歳代は、21.7%と低くなっています。

地域別では、見たことがある方の割合は、中南勢地域（43.6%）、北勢地域（35.7%）、伊賀地域（30.4%）の順に高くなっています。

意味を知っている方の割合は、中南勢地域（42.6%）、伊賀地域（36.2%）、北勢地域（30.7%）の順に高くなっています。

東紀州地域は、見たことがある方の割合、意味を知っている方の割合ともに、18.8%と低くなっています。

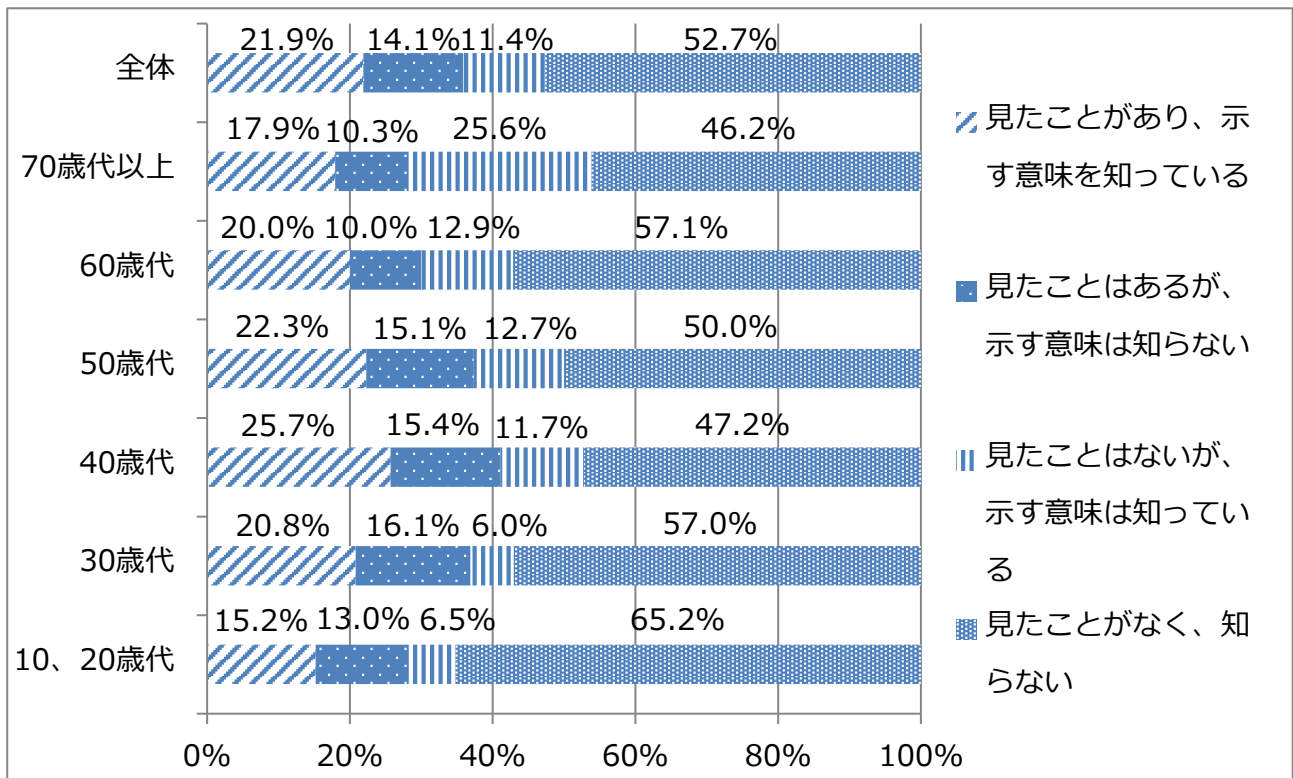


図 「適合証プレート」の認知度について（年代別）

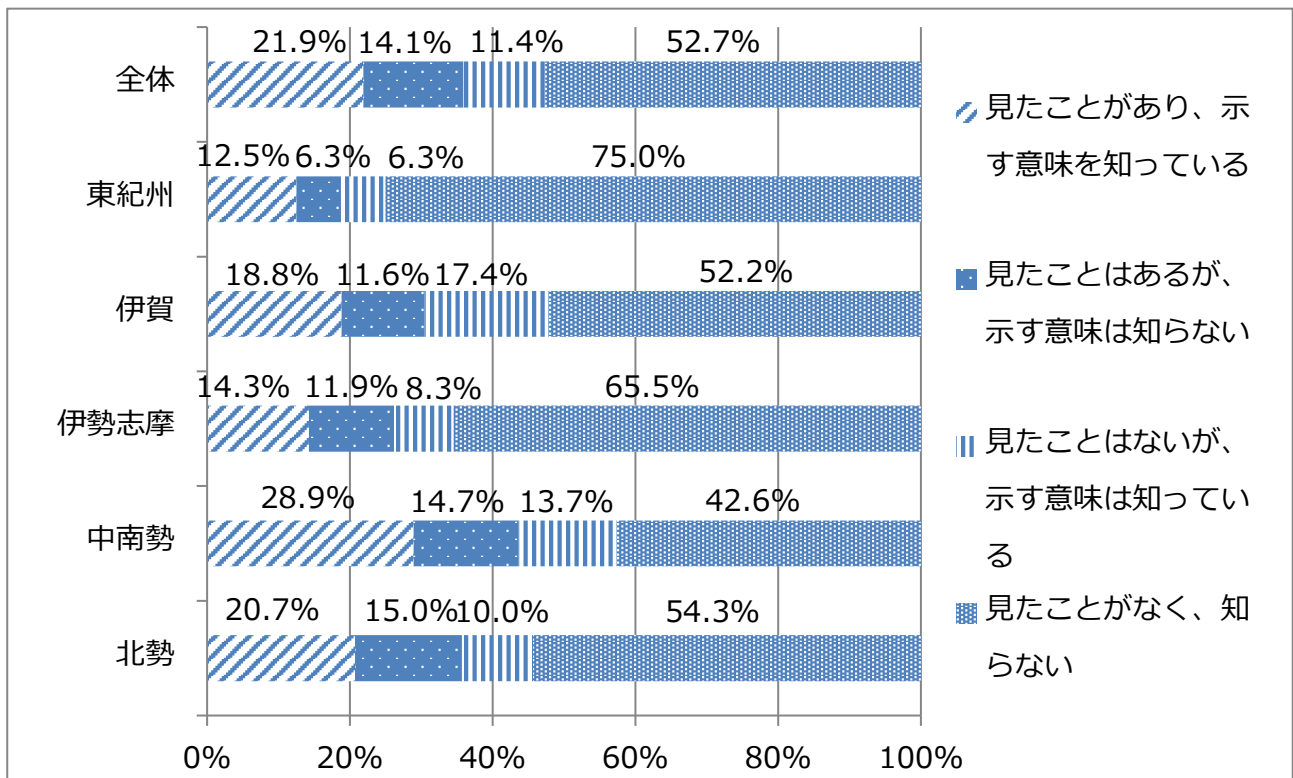


図 「適合証プレート」の認知度について（地域別）

13 「マタニティマーク」の認知度について

Q13 「マタニティマーク」は妊産婦が交通機関等を利用する際に身につけ、周囲の人が妊産婦への配慮を示しやすくするためのものです。また、交通機関、職場、飲食店等が、呼びかけ文を添えてポスターなどとして掲示し、妊産婦にやさしい環境づくりを推進するものです。

あなたは、「マタニティマーク」を見たことがあります、その意味をご存知ですか。

[参考：マタニティマークに関する厚生労働省のHPアドレス]

http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kodomo/kodomo_kosodate/boshi-hoken/maternity_mark.html

「マタニティマーク」について、「見たことがあります、示す意味を知っている(62.1%)」「見たことはあるが、示す意味は知らない(7.7%)」を合わせて69.8%の方が見たことがあると回答しています。

また、「見たことがあります、示す意味を知っている(62.1%)」「見たことはないが、示す意味は知っている(19.6%)」を合わせて81.7%の方が示す意味は知っていると回答しています。

見たことがなく、示す意味も知らない方は、10.6%となっています。

年代別では、見たことがある方の割合は、10歳代20歳代(93.5%)、30歳代(89.9%)、40歳代(76.2%)の順に高くなっています。一方、70歳代以上は、46.2%となっており、年代で差が大きく出ました。

意味を知っている方の割合は、30歳代(94.6%)、10歳代20歳代(91.3%)、40歳代(83.2%)の順に高くなっています。

地域別では、見たことがある方の割合は、伊賀地域(71.0%)、北勢地域(70.9%)、中南勢地域(70.1%)の順に高くなっています。

意味を知っている方の割合は、伊賀地域(89.9%)、東紀州地域(87.5%)、北勢地域(82.4%)の順に高くなっています。

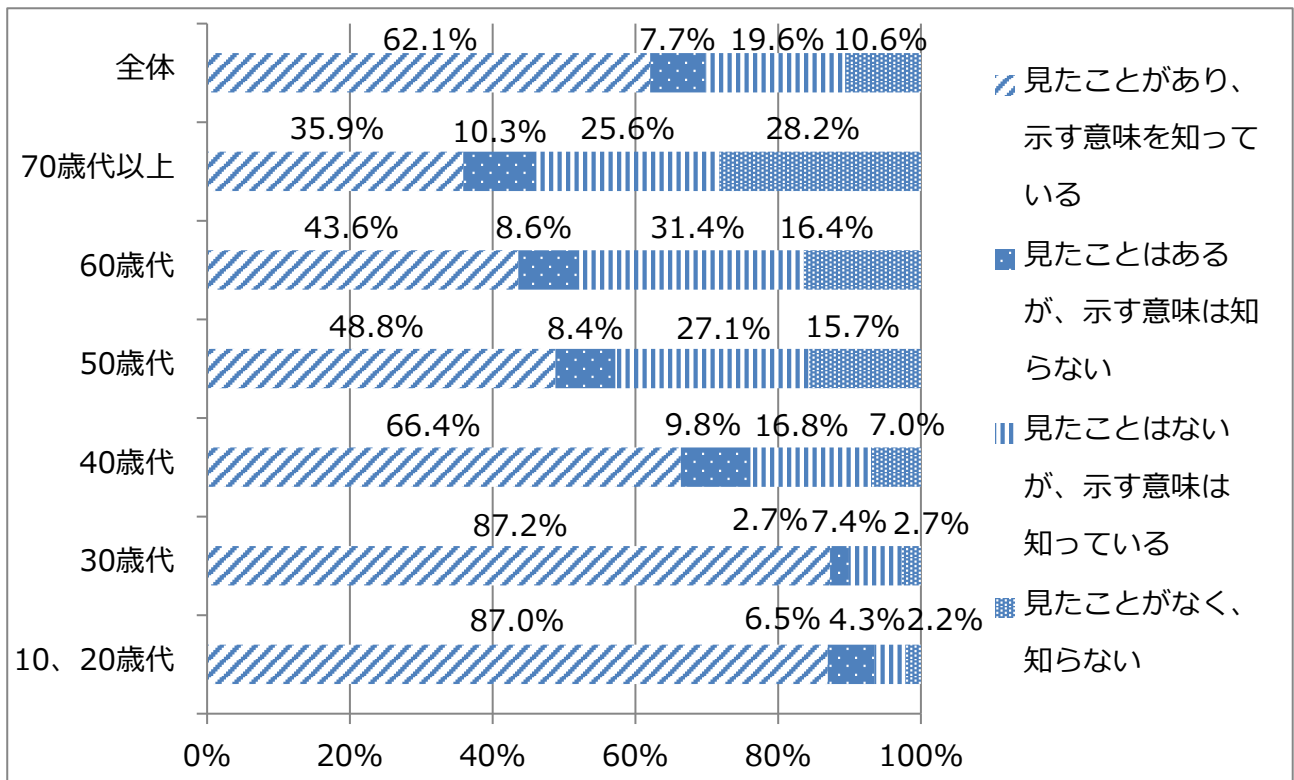


図 「マタニティマーク」の認知度について（年代別）

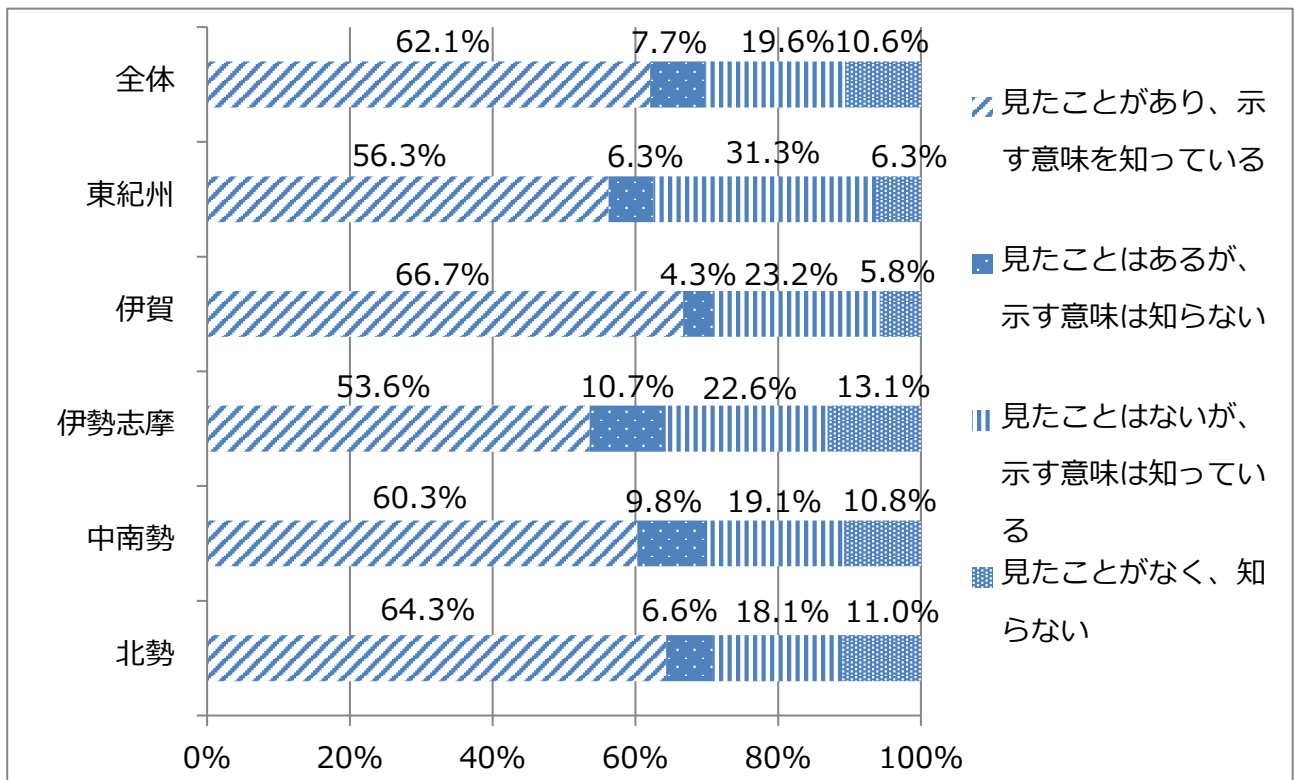


図 「マタニティマーク」の認知度について（地域別）

14 「ベビーカーマーク」の認知度について

Q14 「ベビーカーマーク」は公共交通機関や商業施設などにおいて、ベビーカー使用者が安心して利用できる場所や設備を明示したり、ベビーカーの使用を禁止する場所や設備を明示したりするためのものです。

あなたは、「ベビーカーマーク」を見たことがあり、その意味をご存知ですか。

[参考：ベビーカーマークに関する国土交通省のHPアドレス]

http://www.mlit.go.jp/report/press/sogo09_hh_000083.html

「ベビーカーマーク」について、「見たことがあり、示す意味を知っている(26.9%)」「見たことはあるが、示す意味は知らない(8.6%)」を合わせて35.5%の方が見たことがあると回答しています。

また、「見たことがあり、示す意味を知っている(26.9%)」「見たことはないが、示す意味は知っている(25.3%)」を合わせて52.2%の方が示す意味は知っていると回答しています。

見たことがなく、示す意味も知らない方は、39.1%となっています。

年代別では、見たことがある方の割合は、30歳代(39.6%)、40歳代(39.3%)、70歳代以上(38.5%)の順に高くなっています。

意味を知っている方の割合は、70歳代以上(64.1%)、60歳代以上(60.0%)、10歳代・20歳代(52.2%)の順に高くなっています。

地域別では、見たことがある方の割合は、中南勢地域(40.2%)、東紀州地域(37.5%)、北勢地域(35.2%)の順に高くなっています。

意味を知っている方の割合は、東紀州地域(62.5%)、伊賀地域(55.1%)、中南勢地域(53.9%)の順に高くなっています。

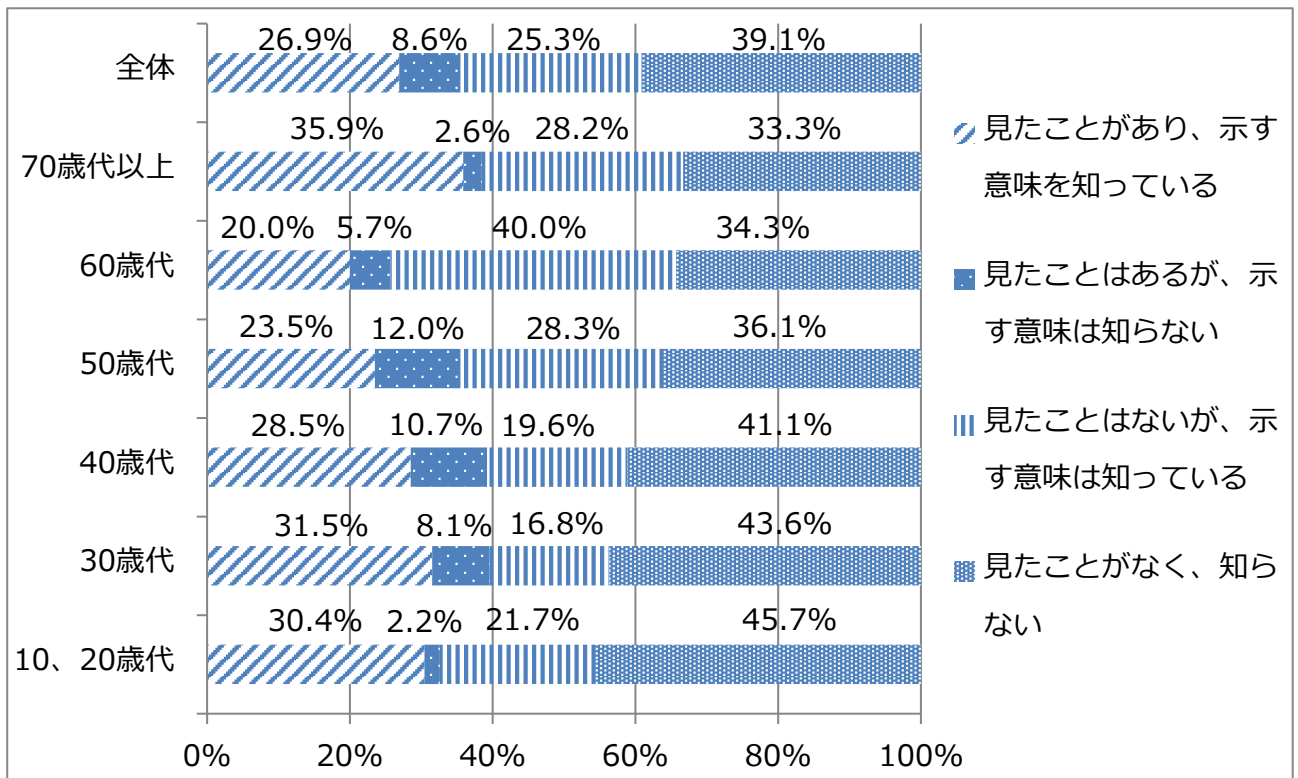


図 「ベビーカーマーク」の認知度について（年代別）

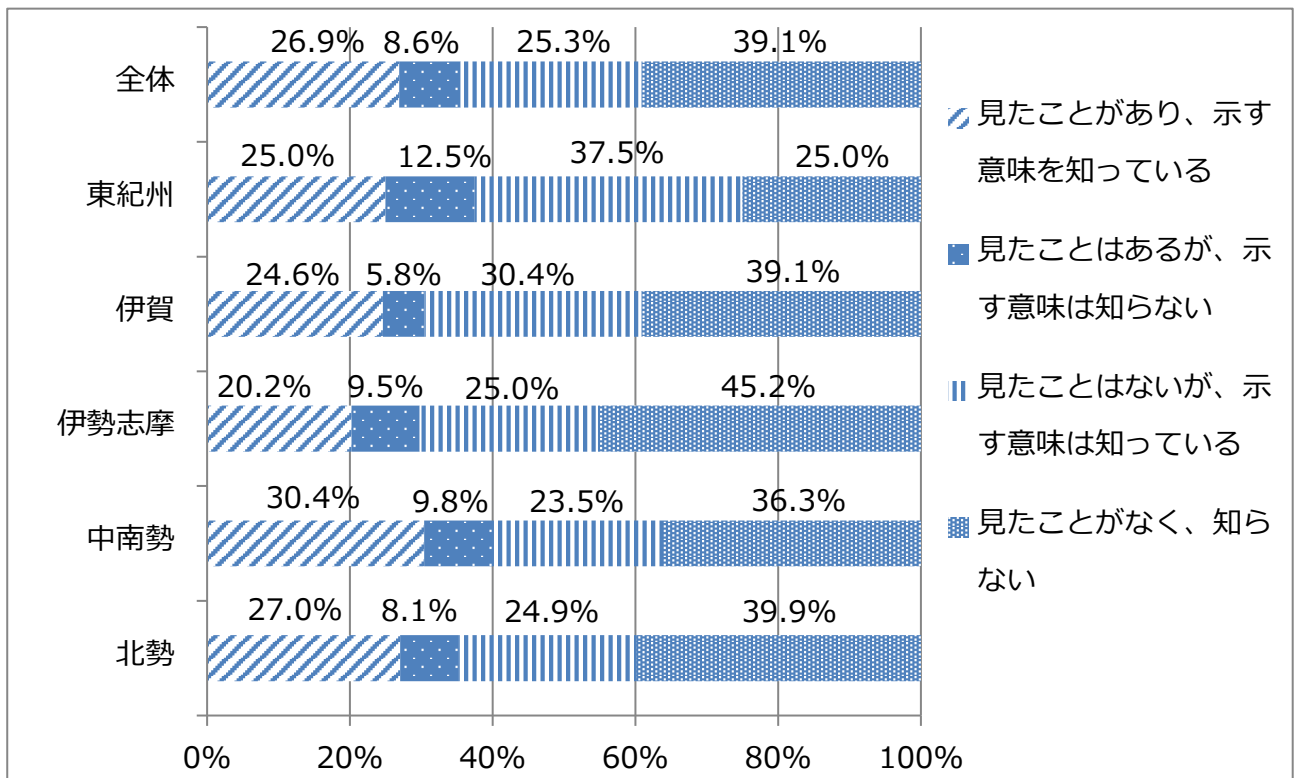


図 「ベビーカーマーク」の認知度について（地域別）

15 「ヘルプマーク」の認知度について

Q15 「ヘルプマーク」は義足や人工関節を使用している方、内部障がいや難病の方、または妊娠初期の方など、外見から分からなくても援助や配慮を必要としている方々が、周囲の方に配慮を必要としていることを知らせることで、援助を得やすくなるよう、作成したマークです。

あなたは、「ヘルプマーク」を見たことがあり、その意味をご存じですか。

[参考：ヘルプマークに関する三重県のHPアドレス]

http://www.pref.mie.lg.jp/UD/HP/20794012515_00001.htm

「ヘルプマーク」について、「見たことがあり、示す意味を知っている（31.3%）」「見たことはあるが、示す意味は知らない（6.4%）」を合わせて37.7%の方が見たことがあると回答しています。

また、「見たことがあり、示す意味を知っている（31.3%）」「見たことはないが、示す意味は知っている（26.8%）」を合わせて58.1%の方が示す意味は知っていると回答しています。

見たことがなく、示す意味も知らない方は、35.5%となっています。

年代別では、見たことがある方の割合は、10歳代・20歳代（47.8%）、30歳代（41.6%）、40歳代（41.1%）の順に高くなっています。

意味を知っている方の割合は、60歳代（66.4%）、70歳代以上（64.1%）、10歳代・20歳代（60.9%）の順に高くなっています。

地域別では、見たことがある方の割合は、東紀州地域（43.8%）、北勢地域（41.2%）、中南勢地域（39.2%）の順に高くなっています。

意味を知っている方の割合は、中南勢地域（60.3%）、北勢地域（58.8%）、伊賀地域（55.1%）の順に高くなっています。

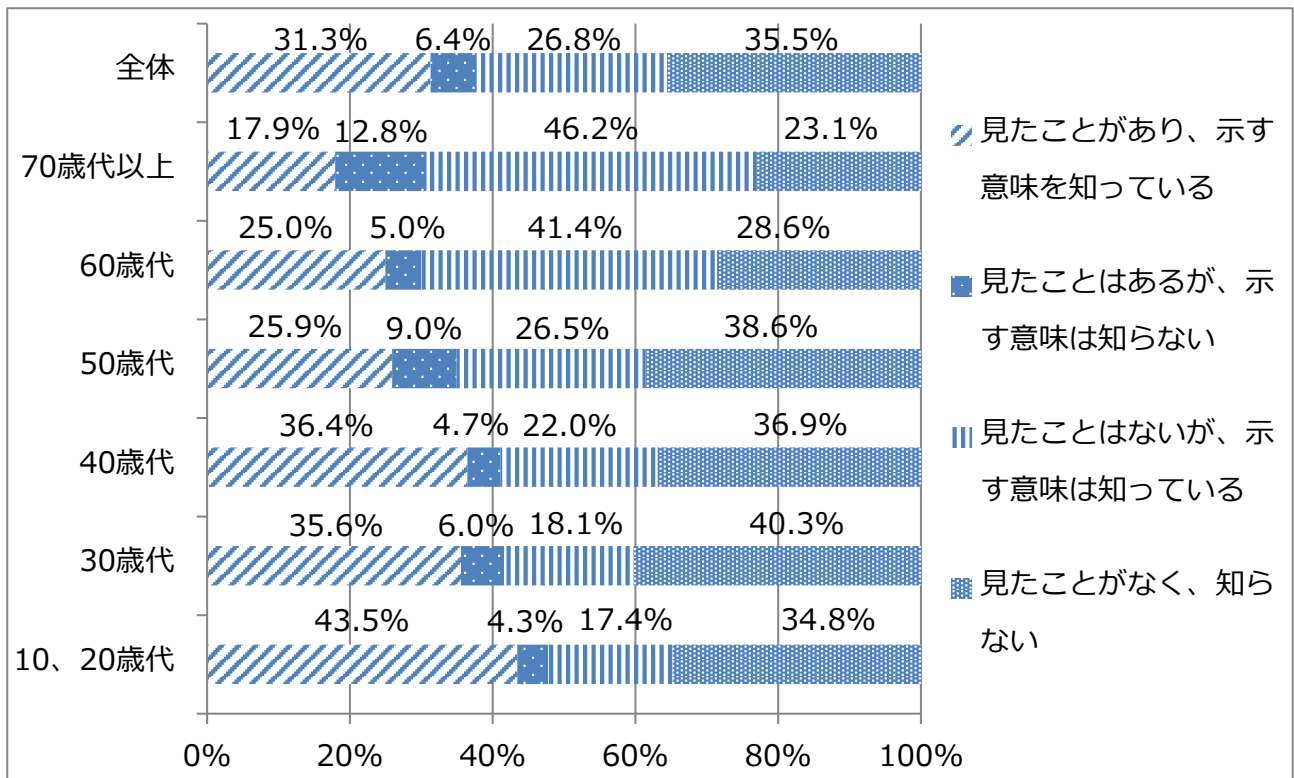


図 「ヘルプマーク」の認知度について（年代別）

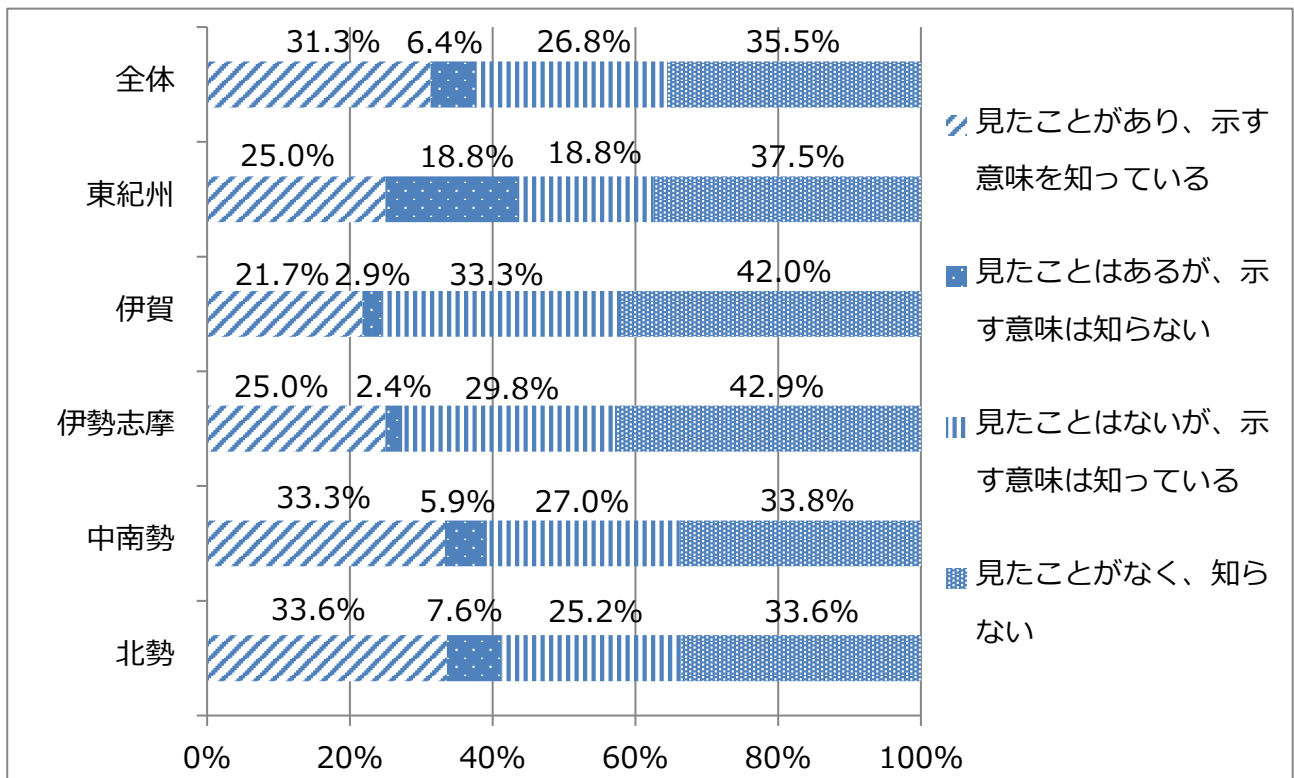


図 「ヘルプマーク」の認知度について（地域別）